

総合患者支援センターニュース

〒700-8558
岡山市鹿田町2丁目5番1号
岡山大学医学部・歯学部附属病院
総合患者支援センター
☎ 086-223-7151 (代表)
☎ 086-235-7744 (直通)

Integrated Support Center for Patients and Self-learning
Okayama University Hospital



病院長 挨拶

病院長 森田 潔



清水前附属病院長の後任として平成17年6月14日付けで就任いたしました。本学を卒業後、麻酔蘇生分野を専門といたしまして、岡山大学病院で約30年間診療、研究に取り組んでまいりました。よろしくお願いいたします。

病めるときには多くの不安を抱えるものです。そういった患者さまやご家族の方々の支えになることを目標にした総合患者支援センターが開設されたのが平成15年4月のことです。院内、学外の多くの方々に支えられながら、患者さまからの治療、看護、福祉などに関わる多くのご相談、積極的に治療に参加されるように患者さまが自己学習をされるご支援、ミニコンサートや各種セミナーなどの開催支援などセンターの活動も充実してまいりました。また、利用される方の数も多くなって、皆様方のお役に立てていることと思大変嬉しく思っております。今後も皆様のご意見、ご要望にお答えし、さらに発展していきたいと考えております。

岡山大学病院を取り巻く環境は岡山大学が平成16年度より独立行政法人となったことで大きく変化いたしました。また、医療環境も生活の変化や高齢化などによりますます多様化しています。しかし我々の「高度な医療をやさしく提供する」という理念に変わりはなく、本院に治療のため通院・入院される患者さまひとりひとりに安心して医療を受けていただけるよう職員一同努力しております。

岡山大学病院は、これからも最高水準の医療を提供し、また安全対策に全力を尽くし、皆様方に信頼され、親しまれる病院でありたいと思います。

ボランティア研修会



7月7日(木) 当院において、病院ボランティアを対象とした研修会を開催しました。講師にNPO 法人日本病院ボランティア協会 理事長 宮本美嘉子氏をお迎えし、『病院ボランティアとしての心構え』というテーマでご講演いただきました。

病院の中に社会の風を入れてくれるボランティアは、患者様にとってやすらぎの存在です。阪神淡路大震災の年が“ボランティア元年”となり、患者サービスの視点からも病院の質が評価されるようになったこの10年間に、ボランティアを受け入れる病院が全国的にも増えてきました。医療の質を高めるといふ点において、ボランティアは病院にとって欠かせない存在となっています。

また、患者様と同じ目線から提案をしていただくことで、病院を変える力にもなります。それだけに、ボランティア自身も責任を持って活動を続けていくことが必要であるとお話いただきました。

当院では、現在130名のボランティア登録があり、研修会やミーティングをもちながら、ボランティアと職員が共に成長し合う活動をしていきたいと考えています。10～11月には今年度後期のボランティアを募集します。関心をお持ちの方は当センターまでぜひご連絡ください。



NPO 法人日本病院ボランティア協会
宮本美嘉子理事長

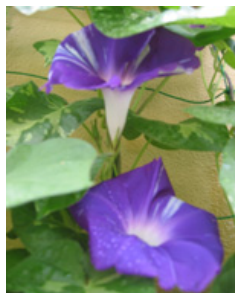
朝顔を植えました



RSK山陽放送の環境キャンペーンの一環で、朝顔の苗を60本いただき、ボランティアと患者様とで植えました。



私たちが植えました！



猛暑に負けず、支柱&手作りネットをつたって成長しました。

乳癌患者様の会 アニマート

近年、日本での乳癌の増加は著しく、すでに年間約3万6千人を超えているのが現状です。岡山大学でも数年前に比較して、患者様は、倍に増えておりますが、その一方で外来でゆっくりお話をする時間が短くなってきています。そういった状況を解決するため、すなわち医療者側と患者様のコミュニケーションを図るため、また乳癌の新しい情報を提供するために、岡山大学乳癌患者様の会を設立しました。

第1回目の会を、平成17年7月10日に開催し、名前もアニマート（イタリア語で生き生きと）に決定し、参加者は約50名でした。講演は、ホルモン療法、リハビリおよび浮腫対策、リマンマ、サポーター、ウィッグなどについて行われました。



乳腺・内分泌外科 土井原講師

アンケートでも、わかりやすかったという意見が多く、特にリハビリについての講演が好評でした。

次回の開催についてのお問い合わせもあり、ぜひ継続して行っていきたいと考えておりますので、会の発展に向けて皆様のご協力をよろしくお願い致します。



総合リハビリテーション部
築山理学療法士

お問い合わせ先：当院外科外来 086(235)7928
午後2時～5時

こころのケア

(Vol. 3)

副センター長 岡田 宏基

＜人間関係を見直してみましよう - 「わかってくれない病」とは - ＞

一口に人間関係といっても、そこには様々なスタイルがあります。

友人関係のように対等なもの、親子関係のように、保護し保護される関係、職場での上司と部下のように、指示しそれに従うという関係など、いくつかのパターンがあります。この枠内でその様式に従って行動していれば大きな問題は起きないのですが。。

さて、心療内科の外来でよく耳にするセリフに、「わかってくれない」があります。夫が妻である自分のことをわかってくれない、親が子である自分のことをわかってくれない、等々。高齢化が進むと、年寄りた親が、子どもが自分の気持ちをわかってくれないという場面も増えてくるでしょう。これらをよく見ると、保護される立場の人が、保護する側の人に対して、わかってくれない、と感じていることが共通しています。

「わかってくれない」、は時として病気を産み出します。思春期やせ症の女の子たちは、親、特に母親が自分のやせていたい気持ちをわかってくれないと訴えます。この気持ちに何らかの形で「けり」がつかないと、やせから回復することは困難です。家庭の主婦にも「わかってくれない病」は存在します。これだけ家を護り、子どもを育て、あなたの親の面倒まで見ているのに、どうしてあなたは私の気持ちをわかろうとしないの！ わかってもらえない戦いに破れると、うつ状態になったり、更年期障害の悪化に至ったりします。

さあ、「わかってくれない病」を克服するにはどうしたらいいのでしょうか？ 次回のお楽しみ。

～支援の窓から～

(VOL. 5)

「痛みの相談室」から
「痛みの相談室」から

保健学科 深井喜代子



痛みは身体の危険信号として重要ですが、原因がはっきりしない長期にわたる痛みはむしろ“害”になります。私どもは痛み研究と疼痛看護の専門の立場から、そうした“不必要な痛み”に積極的に対処するために、昨年5月に「痛みの相談室」(無料)を始めました。

当相談室では、痛みのために日常生活にさまざまな不都合を感じておられる方のご相談を、面接や電話でお受けしています。まず、痛みの特徴や経過はもちろん、痛みによって生じる生活障害について詳しくお聞きします。そして、痛みに関する一般的知識とご自身の痛みに対する洞察を深めていただき、不安の解消に努めます。さらに、痛みの原因や軽減方法、日常生活上の工夫をご一緒に考えていきます。当相談室に来られる患者様のほとんどは長期にわたる痛みの悩みをお持ちで、既に病院で何らかの疾患の治療を受けておられます。しかし、外来では自分の痛みについて多くを訴える時間がないこと、痛みを専門に扱う医療機関が少ないこと、腹痛や頭痛など痛みの種類毎に別の診療部門を訪ねなければならない煩わしさなどの理由から、相談室を訪ねて来られます。医学的には複数の痛みであっても、それらをかかえておられるのはお一人の生活者であるとの視点で、私どもは患者様とともに痛み“挑戦”して参ります。痛みでお困りの方はお気軽に「痛みの相談室」をお訪ねください。

なお、「痛みの相談室」は当院の「麻酔科外来ペインセンター」とも連携して活動しており、必要に応じてご紹介させていただいています。

開室日時 毎週木曜日午後3時～5時

電話相談 086-235-7844 (開室時のみ受付)

“がんの患者と家族のためのクラブ 並木ひろば”の開催!

みなさん、“並木ひろば”って聞かれたことがありますか?がんの患者様とご家族が、互いに励まし合い支え合いながら、より快適で個々にとって意義ある生活をめざすことを目的に活動しているグループです。毎月かとう内科並木通り診療所内でクラブを開催されていますが、今回初めて当院に「出張」していただけることになりました。参加は自由です。とてもあたたかく穏やかな雰囲気が集まりです。この機会に一度のぞいてみられたらいかがでしょうか。

開催日時 : 2005年9月14日(水)午後1時30分～3時30分
場 所 : 当院西病棟1階総合患者支援センター 多目的学習室1
問い合わせ先 : 事務局 香川さん TEL090-4140-2500

編集後記

残暑もようやく和らいできました。

「アニメート」「並木ひろば」など患者様の交流の場が広がります。不安を一人のものとし、共に語り合う場となればと思っています。(T)

